

師走 | しわす

「師」はお坊さんのことを表していて、「走」はそのまま走るという意味。「お坊さんでさえ忙しくて走り回る月」という意味です。

てくてく情報

1 植物と虫

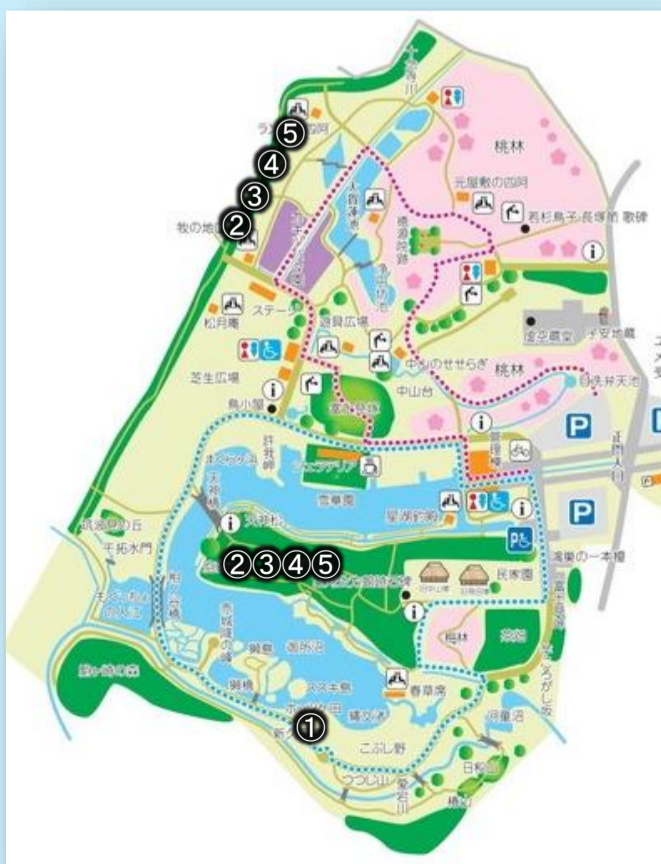
枯れ木の中で越冬する虫たち！

冬になると、公園から虫たちの姿が消えてしまったかのように感じられます。けれど実は、成虫のまま枯れ木や草陰に身をひそめ、ひっそりと冬を越す虫たちもいます。

たとえば、子どもたちに人気のクワガタ。夏に成虫になったクワガタは、枯れ木や朽ち木の中に潜り込み、そこで冬を過ごします。クワガタは数年生きる昆虫なので、成虫のまま越冬することができるのです。朽ち木をそっと割ってみると、コクワガタの成虫や幼虫が見つかることもあります。また、秋に生まれたスズメバチの女王蜂も、春の巣作りに備えて朽ち木の中で冬を越します。さらに、テントウムシやカメムシは、建物のすき間や樹皮の下などに集まり、寒さをしのぎます。

虫たちの冬の過ごし方は、卵・幼虫・蛹・成虫と、種類によってさまざまです。目には見えなくても、静かな冬の自然の中には、春を待つ命がたくさん息づいています。寒い季節にこそ、そんな虫たちのたくましさ思いを馳せてみるのも素敵ですね。

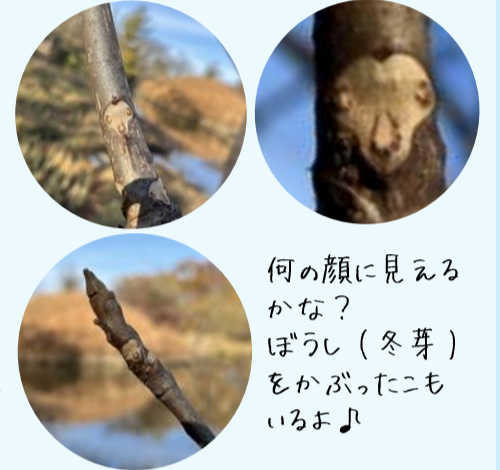
園内マップ



2 野遊びしよう♪

冬の植物観察♪オニグルミ(①)の葉痕(ようこん)

葉痕とは、葉が落ちた後に枝に残る傷跡のことです。木の種類によって形や模様が異なります。中には目や口のような斑点があり、人や動物の顔に見えることも。これらの斑点は、水分や栄養を運ぶ「維管束」の跡で、植物ごとに違うため、木の種類を見分ける手がかりになります。同じ木でも葉痕ごとに表情が異なるのが面白いところ、泣いているように見えたり笑っているように見えたりと、観察する楽しみが広がりますよ♪



何の顔に見えるかな？
ぼうし(冬芽)をかぶったこもいるよ♪

3 今月の生き物 -小鳥の混群-

この季節ならではのバードウォッチング♪

秋冬の公園を歩いていると、小鳥たちのにぎやかな群れに出会うことがあります。シジュウカラ、エナガ、ヤマガラ、コゲラなど、種類の異なる鳥たちが一緒に行動する集まりを「混群(こんぐん)」といいます。混群は、秋から冬にかけての季節にだけ見られる現象です。春になると、それぞれの鳥たちはつがいを作り、子育てのために単独で行動するようになります。では、なぜ違う種類の鳥たちが集まるのでしょうか？ その理由のひとつは身を守るためです。群れで行動することで、たくさんの目と耳で周囲を見張ることができ、天敵にいち早く気づくことができます。また、鳥の種類によって食べるものやエサの探し方が異なるため、エサの取り合いが起こりにくいという利点もあります。混群の中では、それぞれの鳥が自分の得意な場所でエサを探しています。たとえば、エナガは小枝や葉の裏にいるアブラムシなどの小さな虫を好み、軽やかに枝から枝へと移動します。シジュウカラはもう少し大きな体で、幹や下草の中にある虫を探すのが得意です。コゲラは日本で最も小さなキツツキで、木を叩いて中に潜む虫を探します。彼らはそれぞれ異なる方法で採餌するため、うまく役割分担ができています。混群の中にいると、まるで森の中を舞う小さな妖精たちに囲まれているような、不思議な気持ちになります。冬の公園を歩くときは、そんな小鳥たちの自由で賢い暮らしぶりに、ぜひ目を向けてみてください。今だけの、特別な出会いが待っているかもしれませんよ。



②シジュウカラ



③エナガ



④ヤマガラ



⑤コゲラ

Xアカウント



Instagramアカウント

